

アーカイブ Data Report NO. 60

(2020年11月28日)

〒500-8813 岐阜県岐阜市明徳町10番地 杉山ビル5F
E-mail: shikaku@npo-nak.com URL: https://npo-nak.com

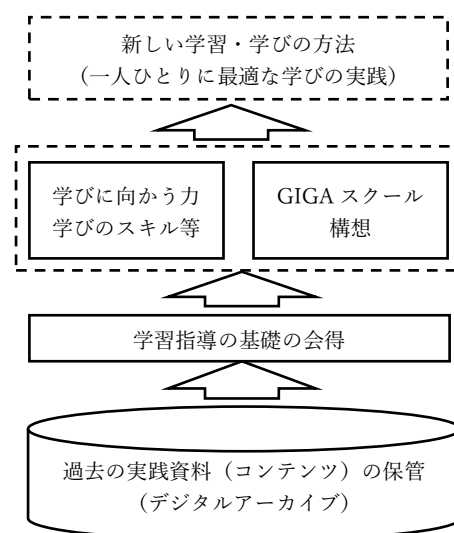
デジタルアーカイブを用いて児童の学び方のスキルの基礎資料を求める！ ～初任者が付けるべき学習指導の基礎への適用～

平野 朋美 (岐阜女子大学院生)、横山 隆光 (岐阜女子大学)
眞喜志 悦子 (岐阜女子大学)、又吉 斎 (沖縄女子短期大学)

1. 「学び方のスキル」「学びに向かう力」の基礎として

教育実践の課題として、現在、学習指導要領を始め、各分野で「学び方のスキル」「学びに向かう力」さらに、GIGA スクールなどの1人に1台の端末、高速大容量の通信ネットワークを完備し、新しい社会に対応できる創造性を育てる教育の実現をさせようと努力されている。(GIGA: Global and Innovation Gateway for All)

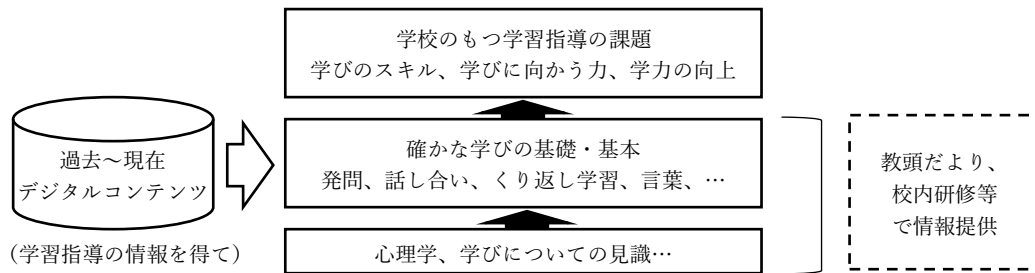
しかし、初任者が教育実践に立ち向かうためには、確かに情報端末を用いて高速ネットワークから有益な情報を得るなどし、それらを活用して、様々な課題解決に用いることが必要である。しかし、まず、「学習指導の基礎」を教師が初任者として会得することの重要性がこのデジタルアーカイブを用いた過去から現在の教育実践資料の分析からされた。



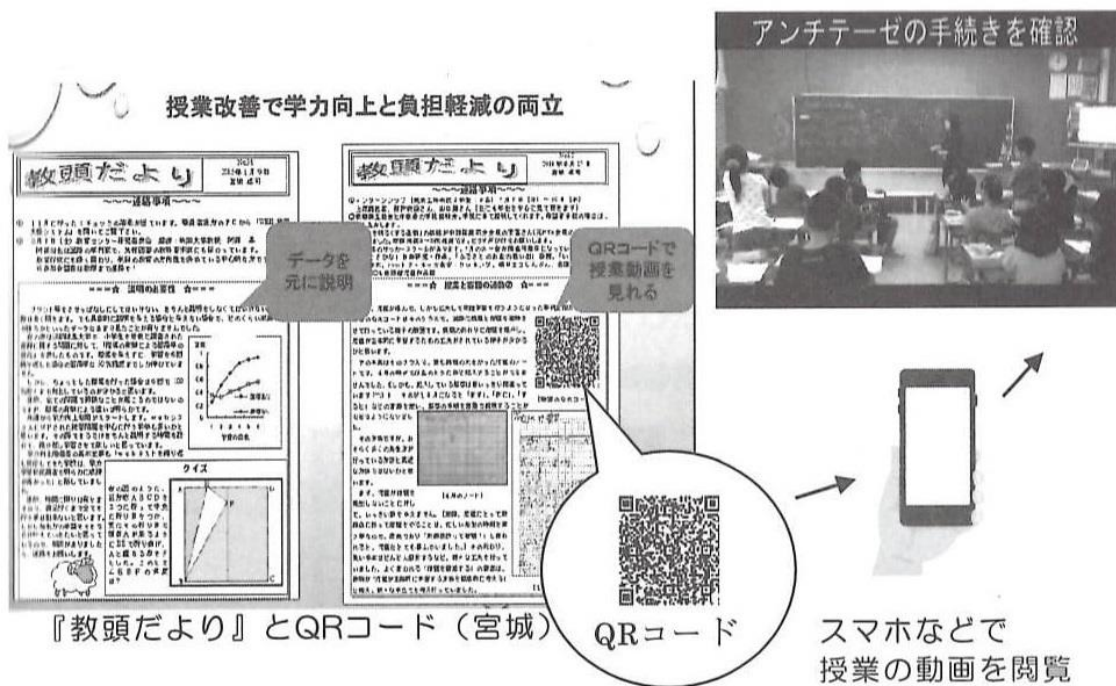
2. 確かな学習指導等の基礎の重要性

初任の岩田晃先生 (1967~1970年) の記録、また、沖縄県のベテランの小学校教諭、宮城卓司先生、井口憲治先生の教育実践活動記録の保管資料を見ても、その根底には 確かな学習指導の基礎がある。岩田晃先生の新任後3年間の記録を見ても、まず、発問 (当時、岩田先生は「探査」という言葉を用いていた)、確認、話し合い (コミュニケーション) など、現在の教育でも当然通じる学びの基本的な事項を授業実践から会得され、その上に、仮説実験方法の授業 (板倉) がなされている。

また、沖縄県の宮城先生、井口先生は、学習の基礎基本である発問、確認、グループ・全体討論、教師と学習者のコミュニケーション、くり返し学習、言葉 (操作言語)、授業の構成等について、過去から現在の資料 (デジタルコンテンツ) から得られた情報を提供し、確かな指導を実践された。



宮城先生（教頭）は、教頭だよりを作成し、毎週、同僚の先生方に提供されたり、校内研修で基礎資料を提供されたり、努力された。これらには関連する授業の動画を閲覧できるようにQRコードを付け、具体的な指導方法の例が理解できるように工夫されている。



放課後は、よく先生方と一緒にこの動画を見ながら、授業改善の方法について「この発問についてはどうか」とか「この問題の提示の仕方についてはどうか」という具合に、具体的に話し合いをされていた。（『確かな学習指導で学力向上へ』2019 沖縄カリキュラム開発研究センター）

このような学習指導の基礎基本を全教師が共有し、実践を進めた結果、市内で学力テストの平均点が最下位だった学校が市内 16 校中 1 位になった。（また、文部科学省の全国学力・学習状況調査でも上位になった。）

3. 初任者として「学習指導の基礎基本」の実践力の必要性

最新の学習指導方法の知識を得て実践することも大切であるが、とりわけ初任者にとっては、学習指導の基礎基本の会得と実践力をつけることがいかに重要であるかということが理解できた。（平野）